



# ホ プ ラ

## 謙虚な姿勢に学ぶ

校長 須貝 克徳

夏休みも終わり、子どもたちの元気な顔が学校に戻ってきました。新型コロナウイルス感染拡大が心配される中での始業式となりましたが、集まった子どもたちの表情から、充実した夏休みを過ごせたことがうかがえました。大きな事故や怪我なく、無事に2学期を迎えることができたことは何よりです。

今年の夏休みは、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を注視しつつ、東京オリンピック、パラリンピックの選手たちの競技の行方に一喜一憂しながら過ごした子どもたちも多かったのではないのでしょうか。今回のオリンピック、パラリンピックは、自国開催だけに、日本の選手が各競技で大活躍し、過去最多のメダルを獲得することができました。



競技も大変興味深かったのですが、競技後の選手のインタビューも、心を打たれるものが多かったように思います。思い通りの結果を出すことができ、メダルを獲得することができた選手が真っ先に口にすることは、「自分だけではここまでできなかった。支えてくれた方へ心から感謝しています。」「応援してくれた○○さんへ、恩返しが出来ました。」というような言葉でした。また、うまく結果を出すことができなかった選手も、結果を相手や環境のせいにするのではなく、「これが今の実力です」「支えてくださった皆さんの期待に応えられず、申し訳ない」「明日から仕切り直しで次を目指します」と、謙虚で前向きなコメントを残す選手が多かったように思います。

謙虚な姿勢というと、2000年のシドニーオリンピック柔道の篠原信一選手の言葉を思い出します。男子100kg超級のフランスの選手との決勝戦は、今でも「世紀の誤審」と言われる試合でした。明らかに篠原選手の技が決まったように見えたのですが、結果は負け。審判の判定が覆ることはありませんでした。しかし、敗れた篠原選手自身は、相手や審判に抗議することなく、試合後のインタビューで、「自分が弱いから負けた、それだけです」というコメントを残しています。相手を責めたり、言い訳をしたりしない潔い姿に強い感銘を受けました。誤審を誘発するような試合をするようでは真の勝者ではないという思いがあったのでしょうか。

子どもたちには、日々、支えてくれる周りの人への感謝の気持ちと謙虚な気持ちを持ってほしいと思います。当たり前で家庭で生活ができ、学校で勉強や運動等、目標に向かってがんばることができること、友達と楽しく遊べること、おいしい食事が食べられること、欲しいものを与えてもらえること、その裏には、支えてくれる家の人や地域の人、先生や友達がいます。家庭生活や学校生活を送る上で、気に入らないことや、納得のいかないこと、我慢できないこともあるかもしれません。そんな時は、周りや相手のせいにして責める前に、自分に原因はないか、自分がこうすればよかったのではないかと考えてみることも大切です。

2学期がスタートしました。感謝の気持ちを忘れず、謙虚な気持ちで過ごす、きっといいことがたくさんあるはずです。